

第57号

令和元年
5月1日

題字
植木 満
初代東進会会長

東進

発行所

土浦一高東進会

〔茨城県立土浦一高
進修同窓会東京支部〕

発行人

東進会会長 飯塚 哲哉

事務局 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館6階

宮崎法律事務所 気付 東進会事務局

TEL (FAX) 03-5421-5321

E-mail: toshinkaisecretary@gmail.com ホームページ <https://to-shin-kai.jimdo.com>

提供 青木 功 (フォトグラファー 昭和50年卒)

- 「人生で大切なことは
オランダで教わった」
根木マリサ (平成18年卒)
- 「柴沼醤油の歴史と世界戦略」
柴沼 和廣 (昭和44年卒)
- 第14回アカンサスクラブ講演録
「ファイナンシャル・プランナー(FP)の
現場より」
福山 浩平 (平成9年卒)
- 第15回アカンサスクラブ講演録
「古本のネット通販で障害者
就労支援「ジョブボン」の挑戦」
島田 博之 (平成3年卒)
- リレー放談 第7回
「私とカラオケの出会い」
櫻井成一朗 (昭和55年卒)
- 令和元年度 総会・懇親会のご案内

「人生で大切なことは

オランダで教わった」

根木マリサ(平成18年卒)



***職業** ジャズピアニスト・作曲家
土浦一高を卒業後、東京藝術大学へと進学し、大学卒業後にジャズに目覚め、世界的ジャズピアニスト大西順子氏からレッスンを受けました。2年間のレッスン期間中、1stアルバムの発表、水戸芸術館でのジャズコンサートに成功させましたが、その後、クラシック音楽をベースとしたヨーロッパジャズを勉強したいと思い、渡欧。オランダと日本を行き来しながら生活しています。

***オランダに行く！**

ヨーロッパジャズを勉強したい！
と、思ってから、ご縁あって、オランダへ行くことになり、阿姆斯特ダム音楽院ジャズ科教授カレル・ボエリー氏の自宅に、ピアノを習いに行くことができました。カレル先生は、オランダを代表するジャズピアニストの一人です。クラシックのハーモニをベースにした、綺麗で優しい・アンニュイなジャズを演奏するピアニストです。オリジナル曲も多く作曲しています。

ヨーロッパアン・ジャズ・トリオという、大ヒットしたバンドの、初代ピアニストであり、世界的に大活躍したジャズハーモニカ奏者トゥーツ・シールマンももつとも信頼した伴奏者でもありました。世界中を演奏旅行で駆け巡った後、現在は、ヨーロッパ諸国での演奏活動と、阿姆斯特ダム音楽院にて教授として後進の育成にあたっています。

そんな、超ビッグアーティストであるカレル・ボエリー氏のご自宅にピアノを習いに行く！！それはそれは、緊張することでした。しかし、彼は、とっても優しく丁寧で、冗談の大好きな素敵な先生でした。私は、彼との出会いで、音楽に対する考え、方、ひいては物事の考え方が大きく変わることになりました。

***君は何を表現したいの??**

オランダに行つて、先生からレッスンを受けるようになって、初めの頃、どうしていいかわからないことがありました。先生のご自宅に着いて、挨拶をしてスタジオに入ると、まず、こう聞かれました。「今日は、何が知りたいの?」と。私が、沈黙するので、すぐに先生は、「じゃ、とりあえず弾いてみて。」と言つてくださり、私も演奏しました。すると、また、先生から聞かれました。「この曲をどうしたいの?」と。私としては、もつとカッコよく演奏したいわけなので、「もつとクールにしたい」と伝えました。でも、先生はまた、質問してきました。「クールって、君にとってはどういう感じ?」と。私は、また沈黙してしまいました。

その後、とりあえず、基本的なジャズの音使い、演奏方法を説明してくださいましたが、それはとっても初歩的な内容でした。そんなものかなと思つて、その日は、終えました。しかし、次の時も、同じでした。ま、ず、「今日は何がやりたいの?」と聞かれ、苦し紛れに私も何かを答えました。

2回目ともなれば、これは、カレル先生流のレッスン形式かな?というところがわかってきました。そこでレッスンは、私が日本にいた頃に受けたものとは、全く異なるスタイルだったのです。今までなら、レッ

スンが始まつてすぐに、何か1曲弾き、先生からご指摘をいただけるのが、当たり前でした。

日本では、生徒は、「はい」しか言わなくて良い状態で、2時間のレッスンは終了することがあることも普通のことでした。しかし、カレル先生のレッスンでは、自分自身で、「どんな音楽をやりたいか。」を決めて、演奏し、でも自分の力では思い描いている音楽に、近づかない!という時に、先生からアドバイスをもらおうというレッスンでした。何かを弾いても、質問しなければ、なにもアドバイスをもらえないという状況は、ピアノを習っていて初めての経験でした。



(Amsterdam 音楽院ホームページより)

***ありのままの君が素晴らしい!**
先生が、いろいろアドバイスをしないのは、基本的に「あなたはあなたのままで素晴らしい」という考え

方があるからでした。日本にいた頃のレッスンは、「できていないところ」を指摘していただくレッスンでした。しかし、カレル先生のレッスンでは「良いところ」をたくさん指摘していただくレッスンでした。そして、本人がさらに、こんな「良いところ」を増やしたい!という希望すると、様々なアイデアをもらえて、練習方法や参考にするべきCDを教えてもらえました。なので、生徒が先生に質問しなければ、先生は「あなたはあなたそのまま素晴らし」と思っているので、生徒の演奏に特に意見はしないようでした。

***自分がどうしたいかわからないなら**

こちらから質問をしないと、先生は何も答えてくれない。先生に聞きたいことはあるのに、初めのうちは、一体、何から先生に質問をしていいのかわかりませんでした。質問が簡単すぎて、あっさりレッスンが終わると、スタジオを出て「今日は、僕の好きなアーティストの音楽を紹介するね。」と言って、ワインとチーズを楽しみながら、音楽の話をする日もありました。もちろん、それはそれで、貴重な時間でしたが、日本でのレッスン形態とは、大きく異なっていました。

そして、そういうワインを飲む時間の中に、「こんな演奏がしたい!」

という自分の希望も出てきて、スタジオでのレッスンになることもありました。常に「自分自身がやりたい音楽はなにか?」を考え続けることで、受け身のレッスンから、能動的なレッスンに変わりました。これ、とても新しい経験でした。

***日本に帰ってきて**

先生のレッスン方法と、コンサートが好きで、最終的には、先生のご自宅に滞在させてもらい、弟子のよくな感じで生活させていただきました。先生は、朝起きてから、何を聞くかを自分で決めて、自分で作ったプレイリストを聴き、自分のコンサートのための作曲をして、最後は夕飯を食べる時の音楽も考えていました。1日中、先生と共に生活し、常に「自分自身がやりたい音楽はなにか?」を考え続ける姿を、近くで見られていたことは、私にとって、とても貴重な財産となりました。

日本に帰ってきてからは、自分の生徒さん達にレッスンをを行う時必ず、「今日は何をしたい?」と聞くように変わりました。最初は、驚いていた生徒さん達ですが、だんだん自分から「今日はこれをやりたい。」と伝えてくれるようになってきます。幼稚園生もちゃんと自分の言葉で伝えられるようになっていくことは、素晴らしいことだと思っています。

コンサートのスタイルも変わりました。今までは、「ジャズライブはこういう感じ。」とか、「クリスマスシーズンだからこんな感じ。」と、自分がやりたいかどうかを脇において、「なんとなく普通」という形態に合わせて考えていたように思います。でも、今は、『「自分自身がやりたい音楽」だから演奏する。』という考え方に大きく変わりました。もちろん、クリスマスシーズンは、クリスマスの曲を演奏したいので、夏の曲は演奏しません。



***いつまでも自分と向き合い続ける**

「自分がやりたい音楽」を探すというのは、自分自身と向き合っていることなんです。オランダ生活では、私が、

自分で考えることをやめてしまっていたことに気付かされました。毎年、「やりたい音楽」は少しずつ変化していますが、今は、澄んだピアノの音色を演奏するために、身体の使い方からスポーツ整体を研究しています。そして、今年も新しいCDを発表するつもりなので、作曲も行っていきます。こちらは、踊れるリズムを研究しながら、曲を書いていきます。経験と共に、「やりたい音楽」は少しずつ変化していて、きっと、永遠に変化し続けるのだと思います。終わらない自問自答をしながら、これからも、自分のやりたいことを追求する音楽人生を貫いていきたいと思っています。

ぜひ、毎年、変化していくコンサートをお楽しみください。

JAZZコンサート

2019年6月2日(日)14時開演

取手市社会福祉会館小ホール

2000円(全席自由)

<http://marisa.fun/jazzconcert-ride/>

Jazz Concert

6月2日(日) 14:00 開演 (13:30 開場)

チケット 2,000円 (全席自由)

取手市社会福祉会館小ホール
茨城県取手市東一丁目1番5号

■チケットのご予約
ネットでの予約: <http://marisa.fun/> / メール: marisamusic@gmail.com
取手市民会館: 0297-73-3251

■お問い合わせ
Tel: 080-4246-4070 (携帯) / Email: marisamusic@gmail.com

「柴沼醤油の歴史と国際戦略」

柴沼 和廣（昭和44年卒）

醤油の産地と言いますと、皆様は野田・銚子を思い浮かべると思いますが。しかし、江戸時代は常陸の国土浦が関東醤油の三大名産地だったのです。土浦で醤油醸造業を始めた国分勘兵衛の醸造する醤油が、関八州で一番評価が高かったため、醤油の事を「おひたち」（常陸の国の醤油）「むらさき」（紫峰筑波山麓土浦の醤油）と言われていました。

土浦藩主土屋政直侯は、藩内で収穫される良質の大豆と小麦に着目し、藩の有力な商品として醤油醸造を奨励し、販売させました。当時ぜいたく品であった醤油は、江戸幕府老中を務める土屋政直侯の後押しを得て、江戸にも販路を広めました。土浦には江戸時代19軒の醤油屋があり、明和2年（1765年）からの醤油仲間証文帳が我が家に残されており、江戸、明治、大正時代までの醤油仲間証文帳が現存しています。

私の先祖は大庄屋を務めるかたわら銚子のヤマサ醤油に大豆・小麦を販売しておりました。1688年（元禄元年）土浦虫掛の地で醤油醸造業を始め、今年で創業331年を迎えます。私で17代目当主となります。

同じ地で同じ家の者が代々継いで行くのは、大変珍しい家系だと言われております。



創業当時の木桶蔵もありましたが、東日本大震災で残念ながら7本喪失してしまいました。しかし、現在でも150年前の明治時代の諸味木桶も、80年前の大正時代の諸味木桶も合計67本残って活躍しております。美味しい醤油は酵母菌を生かして作りますが、現代では古さや歴史だけでなく、最先端の技術である精密ろ過機やアルコール除去機を導入し、鮮度保持ボトル商品やハラル対応の商品も数多く製造しています。世界45か国に輸出しています。

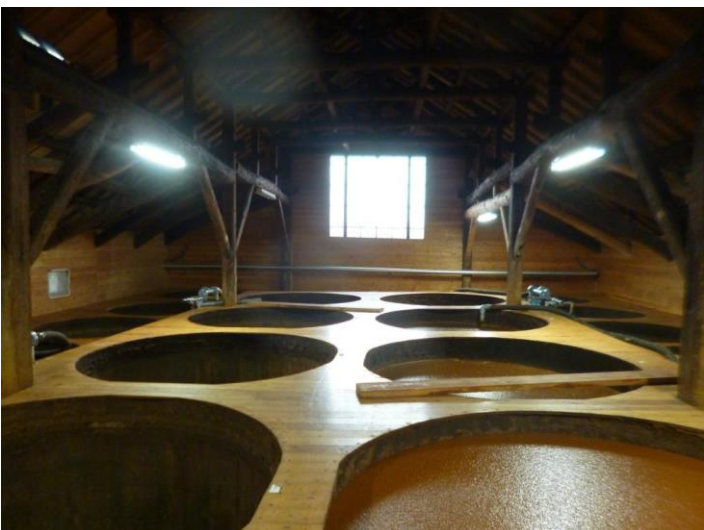
国際線機内食のめんつゆも、J A

シヤキャセイパシフィック航空等に納品していますので、空の上で我社の製品に出会えるかもしれません。輸出は主に息子が担当し、毎年売上を伸ばしています。大手醤油メーカーには真似のできないキメ細かな商品を作り、柴沼醤油のファンを増やしています。

特に、中東や欧州におけるイスラム教徒対象のハラル対応醤油は、製造方法も難しいのですが、お客様のニーズや厳しい要求に対応した商品が増えていきます。国内では天乃屋「歌舞伎揚げ煎餅」の味付け醤油も我社の醤油です。ファミレス「ココス」の醤油ベースのタレや、有名寿司チェーンのPB鮮度保持ボトル醤油なども販売しています。

新たなニーズに対応出来る機械の導入にも積極的で、歴史と革新を同時に推し進めています。さらには食の安心・安全の世界基準FSSC22000認証を今年中に得られるよう、会社をあげて取り組んでいます。

醤油は日本人のDNAに深く根ざしています。安心して食べられる安全な醤油関連商品を今後も作り続けていきたいと思えます。これからも「至誠の精神」を育み、歳はとりましたが「健男児」の心を忘れずに創業400年に向かって歩んでいきたいと思えます。



第14回アカンサスクラブ講演録

「ファイナンシャル・プランナー

(FP)の現場より」

福山 浩平(平成9年卒)

プロフィール

大学卒業後、会計事務所、コーチングファームを経て、大手金融機関に所属。中小企業診断士として『事業承継』CFP®として『資産承継』のアドバイザーをしています。両親からは「人の前で政治・宗教・お金の話はするな」と言われて育ちましたが、アドバイザーのテーマは『お金』に関わることばかりです。

アカンサスクラブの講演では、FPの現場でお客さまから聞く声、その声を通じて専門家として感じていることをお伝えしました。以下は、講演内容をコンパクトにまとめたものですので、一部言葉が足りないところもあるかもしれませんが、みなさまの一助になれば幸いです。

人生100年時代？

『LIFE SHIFT』(著:リンダグラットン)という書籍を読まれた方も多いと思います。一部を紹介しますと人生100年時代が到来する。具体的には2007年生まれの日本人の寿命は平均で107歳(言い換えると107歳まで生きる確率が50%)という内容が書かれています。

この説の真偽はともかく、日本人の平均寿命は伸び続けています。最

新の厚生労働省の調査では男性は約81歳、女性は約87歳です。長寿はもちろん喜ばしいことです。

一方、ニュースや新聞では、デフレ・レシジョン・人口減少・高齢化・社会保障費の増大などネガティブな話題をよく目にすると思います。お会いするお客さまも、未来について樂觀視していない方がほとんどです。日々の仕事に追われる中で、将来に向けてどうすればよいのかのライフプラン(人生の資金計画)を描いておらず、漠然とした不安をお持ちの方が多くいます。

「家を購入した方がいいですか？」

金融緩和の影響もあり、驚くほど安い金利で住宅ローンを組める時代になりました。不動産屋さんから「家賃と同じ月々の負担で、マンションが買えますよ!」と言われ、購入を決めてしまいう方もいらっしゃいます。良心的な不動産屋さんならよいのですが、管理費・修繕積立金・固定資産税の負担について説明をしない業者さんも実際にいるようです。

月々の負担で考えるのはもちろん大切ですが、何歳まで働いてローンを返すか・金利上昇時の対応法・いつまで住む家か・実家をどうするか等の人生全体での視点も欠かせません。購入するのが是非かはご自身の価値観・ライフスタイル・状況によって変わります。人生の大方針に沿って決めることが、正解に近い選択と言えるでしょう。

「副業をした方がよいですか？」

働き方改革に関する企業の実態調査によると、2016年時点で、従業員の副業を認める企業は全体の約2割です。実際に、副業をしている方々からは「スキルアップのため」「社外の人間と関わりたい」「本業の給与では足りないのでやるしかない」と、様々な声をききます。

勤務先に副業がばれないことに腐心をするのは論外ですが、個人的には副業ができる環境なのであれば副業にチャレンジする価値はあると思います。副業についての所得が年間20万円以下であれば所得税の確定申告は不要ですが、住民税についての申告が必要なことはあまり知られていません。

「何に投資するのがよいですか？」

私は投資については中立の立場ですが、投資についてネガティブな印象を持っている人は多いと感じます。「損をしたから投資が嫌いになった」という理由の方もいらっしゃいますが、「よく分からないから手を出さない」という人がほとんどです。

実際にお会いする方の10人のうち8〜9人は、株式・投資信託などの金融商品を保有していません。投資なんか怖くてできないと考える人たちが、ビットコインをはじめとした仮想通貨に興味をもち、マスコミが連日『億り人』を紹介していたのも記憶に新しいと思います。

投資で失敗している人は「何の商

品に投資をすれば儲かりますか?」という風に商品から入る人が多いですが、もちろんそれでは片手落ちです。FPとして必要だと思えるものは、目標運用率・リスク許容度という全体的な視点です。

簡単にいうと、いくらのお金を・どれくらいの期間運用して・どれくらいのリターン(運用率)を目指すのか。この視点の有無が投資で失敗しない為に必要です。その上でFDeco、NISAなどの優遇制度を活用するのが賢い選択です。

みなさんはどのように金融を学んできましたか？

年収700万円の人が投資用マンションを業者者に言われるがまま購入、ローン残高1億円で身動きが取れない状況に。年利20%で元本保証の投資話があったので買ってみた。リボルビング払いをしながら、一番利率の良い定期預金を探している。そんな人が本当にいるの?と思うかもしれませんが、実際に私がお会いした方々です。みなさん人柄の良い方ばかりでした。

このような被害者が生まれるのは、金融教育が浸透していないことに一因があると思っています。また、金融についての正しい理解は、日本の長期的な発展をつなげるものと確信しています。その発展の一翼を担うべく、私は残りの半生をかけて金融教育の浸透・信頼できる専門家の育成をしていきたいと思っています。

第15回アカンサスクラブ講演録

「古本のネット通販で障害者

就労支援「ジョブボン」の挑戦」

島田博之(平成3年卒)

○自己紹介

かすみがうら市(旧出島村)北中学校出身。高校時代は野球部に所属。父も弟も一高野球部。早稲田大学法学部卒業後、ヤフー、アマゾンなどネット業界でキャリアを積み独立。現在、一般社団法人ワーキングバリアフリーの代表理事として、障害者就労支援の事業を展開中。

○一般社団法人ワーキングバリアフリーとは？

ワーキングバリアフリーとは、ワーキング(仕事)とバリアフリーを合わせた造語です。「どんな境遇の人でも、自分の強みを活かして仕事ができる。その実現のために、あらゆる障壁(バリア)を失くしたい」、そんな想いを込めた名前です。

主な活動である「ジョブボン」も、ジョブ(仕事)とボン(本)をあわせた造語です。役目を終えた本を回収し、ネット通販を通して必要な人に届けています。このネット通販業務を障害者が行っており、障害者就労支援に繋がっています。

本日は、日本の障害者就労の現状や課題を知って頂き、その解決方法として「ジョブボン」の挑戦についてお話ししたいと思います。

○日本の障害者就労の現状や課題

内閣府「障害者白書」2016年版によれば、日本の障害者数は860万人、企業就労数は45万人です。日本人全体の6・7%が何らかの障害を持ち、障害者全体の数を100としたとき、5%の障害者が企業に就労しています。

また、厚生労働省(2017年)「障害者雇用状況の集計結果」によると、国から課される障害者雇用率の目標値は2・0%ながら、現状は1・97%に留まります。さらに2018年からは目標値が2・2%に上がっています。労働人口減少傾向のなか、企業は障害者の雇用確保という課題を抱えています。そのような課題の中、行政は様々な障害者支援事業を行っています。

○就労支援事業所とは

支援事業のなかで、主に就労に関するものが、(民間が運営する)就労支援事業所です。私に関わっているのは、移行支援および継続支援(A・B型)です。移行支援は一般企業に就職するための学校のような位置づけで賃金は出ません。一方、継続支援は働く場なので賃金が出ます。平均月額賃金は、A型は約7万円、B型は約1・5万円であり、賃金向上が大きな課題です。

○今までの仕事の課題

障害には知的や身体などがありますが、私に関わる中で最も多いのは精神(統合失調症、発達障害など)

です。精神障害者は年々増加し、障害者全体でも割合が高くなっています。

精神障害者は、ルールや枠組みが決まっている中で、比較的高度な作業でも丁寧かつ正確に行うことが得意です。健常者が苦手な作業でも、もくもくと正確に飽きずに行うことができます。

今までは封入などの内職作業が一般的でした。勿論このような作業は不得意ではありませんが、賃金単価が低く、何よりも丁寧に作業を行う、という彼らの良点を活かすきれず、賃金向上の機会を失わせていました。

○ジョブボンの挑戦

そのような背景をもとに、ジョブボンプロジェクトは始まりました。役目を終えた本を検品・クリーニング(リペア)。本の状態を丁寧にチェックし、パソコンを使ってアマゾンへの登録。注文が入った後の梱包・配送。すべて障害者の業務で、障害者就労支援事業所で行っています。

障害者の能力を最大に活かすため、私は本の回収に力を注ぎます。具体的には、企業や美容院、カフェなどに本の回収ボックス(ブックポスト)を設置する活動です。そして上述のとおり、本の販売はアマゾンで行っています。

本の調達はブックポスト、販売はネット販売を活用することで、障害者の不得意な部分を補い、得意な分野に集中できる環境を作っています。

当初はトラブルもあったものの、業務フロー、システム、マニュアルなどを整備することで、今ではほとんどの作業を、障害者自身で判断してできるようになりました。また、現在8社の事業所が業務を行っています。

なお、アマゾンでの店舗評価は99%の高評価です。これは他店舗と比べてもかなり高くなっています。障害者の丁寧で正確な作業によって、質の高い商品を購入者の元に届けているからだと考えています。

○ジョブボンの課題

当面の課題は本を沢山集めることです。2019年2月現在でブックポストは75箇所を設置し、集めた本は2万4183冊まで積み上がりましたが、目標は全国1000箇所にしたが、ブックポストを設置することです。本を集める活動は、現在はほとんど私が行っていますが、今後は障害者施設にも本を集める活動を担ってほしいと考えています。独自に本を集めることで、さらに賃金向上を実現できます。そのためには、私はどのようにサポートするべきかを考えています。

そして、ジョブボンの最終目標である、「アマゾンの古本販売店の中でNO.1」を実現し、新たな障害者の仕事としてスタンダードを作っていくたいです。

リレー放談 第7回
「私とカラオケの出会い」
櫻井成一朗(昭和55年卒)

本連載の執筆について、前回ご担当の柳さんから依頼を受けた時に二つ返事でお引き受けしたものの、何を書こうか迷いました。趣味の映画について書くかとも思いましたが、今回は、私とカラオケの出会いをお話しさせていただきますと思います。

実は、ここ何年か、私は、東進会総会の公式な2次会としてカラオケ会を企画させていただいております。企画と申しましても、会場を予約して、カラオケ会を取り仕切るだけです。が、もし今年の総会でもカラオケ会が企画されましたら、どうぞお気兼ねなくご参加頂ければ、幸いです。ざいます。

要望があればカラオケ会を企画している私ですが、実はカラオケとのつながりはそれ程古いわけではありません。学生時代は研究室の宴会にてカラオケを皆で演じる程度で、外でカラオケに行くことはほとんどありませんでした。就職してからも、カラオケに行く機会がほとんどなかった。カラオケのデンモクの使い方も知りませんでした。現在、私の授業の中でカラオケの歴史に触れる機会があるのですが、レ

ーザーカラオケや通信カラオケ等名前だけで、実際に利用したことはほとんどありませんでした。実際にカラオケと言えば、記憶に鮮明なのは、やはり8トラックテープです。ですから、カラオケに行くのは数年に1度の頻度で、誘われて行く程度で、仮に行つたとしても自ら積極的に歌うわけでもなく、他人の唄声を聞くことが多かったのです。そんな私に、今では、1年の中で歌わない日が無いほど、ほぼ毎日歌っているのです。

私がカラオケに足繫く通うようになったきっかけは、最初に東進会に参加した時に一人の同級生と出会ったことです。同級生と言っても、四十半ばまでお会いしたことがなく、東進会がまったくの初対面だったのです。総会では話し足りなかつたのか、連絡先を交換し、一つ学年下の後輩と3人で食事会に行くことになりました。

さて、同年齢とは言っても、ほぼ初対面に等しい2人を相手にした食事会では、話題に困るだろうと思つて、数人の同級生に声をかけて、プチ同窓会にしてしまいました。総勢5、6人のプチ同窓会ですが、楽しく食事して、話すことができました。ちなみに、当時、私はお酒を飲みに行く機会もほとんどなくて、職場の飲み会に参加する程度で、今の私か

らは信じられないかも知れませんが、数か月に1回程度飲みに行くだけでした。今はカラオケと一緒にほぼ毎日飲んでいますが。

プチ同窓会を開いた後に、そのメンバーの2人がカラオケ好きだったらしく、2人から今度はカラオケサークルに誘われました。カラオケサークルは、カラオケ好きの人たちの集まりで、参加者が順番に一曲ずつ歌っていく集會なんです。そして、他の人が歌っている時には、静かに聞いている。そんな集まりに参加していると、レパートリーが少なく、歌う曲がすぐになくなってしまいました。

2時間の集まりにしても、全体で20曲余りですから、5人のカラオケ会でも最低4曲位は歌えないと困ります。女性歌手の歌でも歌わないことには、曲が足りません。今でこそ、松任谷由実や松田聖子等の女性歌手の楽曲を歌いますが、実は女性歌手の歌などほとんど歌ったことなどありませんでした。キーを変更して歌うという技も知らなかつたし、キーはそのまま歌うのが当然と考えていたのです。レパートリーを増やすために、「ヒトカラ」なる一人でカラオケボックスに行くようにもなりました。

その結果、カラオケの会員証が増

えていきました。自宅近くのカラオケスナックでは、カラオケの採点ゲームで遊んでいました。お客同士で同じ曲を歌って、点数を競うのです。点数を上げるために、キーを変更して歌うことを覚えました。

女性歌手の楽曲の方が、高得点になることがわかり、他のお客に勝つために、女性歌手の楽曲も歌うようになりました。最初は1日置きだったスナックが、仕事の帰りがけに毎日のように顔を出すようになり、その結果、毎日お酒を少しですが飲むようになりました。毎日歌うようになってからも、三十代の頃には出せた裏声が出せなくなりました。いつか裏声が戻り、女性歌手の楽曲を原曲キーで歌う日を夢見て、今日も歌っています。今は研ナオコだけを原曲で歌うことができず、西崎みどりを原曲キーで歌えたらなあと思ってます。機会があれば、カラオケを一緒にしましょう。

次のリレー放談は平成5年卒の伊東明彦さんに引き継ぎたいと思います。



令和元年度 総会・懇親会のお知らせ

- ・日時： 令和元年6月9日(日曜日)
 - 11:00 受付開始
 - 12:00 母校吹奏楽部による演奏
 - 12:20 母校応援指導部による演舞
 - 12:40 講演
 - 13:20 総会
 - 13:40 楽語 「土浦一高東進会 Facebook」ページで最新情報提供中です。ぜひご登録ください。
 - 14:00 懇親会
 - 15:30 閉会 ホームページ <https://to-shin-kai.jimdo.com>
- ・場所： 学士会館 210号室
 千代田区神田錦町3-28 03(3292)5936
- ・会費： 東進会年会費 3,000円 【同封の振込用紙をご利用ください】
 懇親会費 7,000円
- ・講演： 『人間の安全保障』の視点から考える
 外国人労働者や難民・子弟の受入れ問題
 ー身近な生活空間の国際化・多様化に向けてー
 長 有紀枝(昭和57年卒 立教大学大学院教授・
 AARJapan [難民を助ける会] 理事長)
- ・司会： 伊丹 牧子(平成7年卒)
- ・落語： 立川 志のぼん (本名 廣瀬 敦 平成7年卒)
- ・当番幹事： 三谷 八寿子(昭和61年卒) 島田 博之(平成3年卒)
 廣瀬 敦(平成7年卒) 伊丹 牧子(平成7年卒)

編集後記

「東進57号」は記念すべき新元号令和元年5月1日の発行となりました。幸先の良いスタートです。平成の世には阪神淡路大震災、東日本大震災、鬼怒川氾濫、熊本地震、岡山広島豪雨、北海道胆振沖地震等、多くの災害に見舞われました。令和の時世が災害のない平和な世の中になることを切に願っています。

今号では東進会総会で華麗な演奏をしていただいた根木真梨沙さんと、ここ数年、醬油をご提供いただいた柴沼和廣さんにご寄稿いただきました。楽しんでお読みいただければ、幸いです。

さて、母校土浦一高本館校舎の改修工事が完了し、今年も見事に桜が咲きました。去る4月14日に開催されました進修同窓会総会において、東進会前会長の金大野金一様が会長に就任されました。東進会の一員として大変誇らしく感じております。今後はお体に気をつけていただき、母校と進修同窓会、そして東進会の発展にご尽力下さいますようお願い申し上げます。

(星川)